

「大阪芸術大学所蔵『蓄音機デザイン調査研究』 のための基礎資料作成」

研究年度・期間：平成9年度

研究代表者：出原 栄一

（デザイン学科 教授）

研究ディレクター：福田 肅

（デザイン学科 助教授）

共同研究者：大谷 幹夫 江尻 幹子

（デザイン学科 助教授） （デザイン学科 講師）

研究助言者：鈴木 球也

（大阪美術専門学校 デザイン学科 講師）

研究補助者：柳 知明

（大阪美術専門学校 事務局 課長補佐）

副手（新任）4～5名

研究目的

本学所蔵の蓄音機について、デザイン（家具・木工）史・文様史・グラフィックデザイン・工業デザイン等の研究資料としての価値が認められるが、視覚的な基礎資料が全く無いため、研究利用の機会が得られないのが現状である。

今回は、今後研究対象となるよう、基礎データの作成を行う。そして、それによって研究対象としての可能性を考察したい。

研究計画・方法

資料の作成

1. 写真撮影 正面・平面（上面）・側面を原則とする三面及び各部分のディテール
2. 写真データの保存 将来の利用を考え、M0 ディスクに記録。デジタル・カメラの導入
3. 資料の作成 各機種の写真と資料文章の構成
4. 基礎資料の作成 カード化によるデータの整理 外形寸法 年代・形式・生産国等
5. ファイリング コピー等による複写可能な形式

研究経過の概要

資料室の下見 撮影場所の検討

資料と実物の対照

資料1 写真及び名称等 庶務課保管・作成者不明

資料2 大阪芸術大学芸術情報センター・オーディオ資料室「蓄音機リスト」

元情報センター事務職員・柳 知明（研究補助者）作成

これらの資料を検討した結果、購入時に撮影された蓄音機の写真（庶務課保管）に、部品の組み合わせ等の誤りがあることが判明。また、数量にも不明確な点がある。

資料3 大阪芸術大学図書館所蔵・図書

エジソン：20世紀を発明した男 / ニール・ポールド・ウイン著；椿正晴訳、他洋書
30冊

撮影準備

エジソン円筒式蓄音機が、小型で撮影箇所も多いように予想されたので、これらの撮影から始めた。資料として、オリジナルを基本とするので、上記資料・図書を元にホーン等の組み合わせを再確認した。

撮影

全体（姿図） 上部（平面図） 各面（立面図）及び部分詳細

資料データ用紙の作成

撮影資料の処理

フォトタッチソフト：アドビ・フォトショップを用い、同・イラストレーターにより写真と文字を構成。MO ディスクに保存。

研究成果

現在骨董品的な価値が優先され、我が国で入手できる資料が不完全である。写真資料も全体の外形のみである。そのような状態で、後日どのような目的にも対応出来る資料の作成を考えた。

97年12月末現在、エジソン円筒式蓄音機の撮影が一応終了した。かなりの時間を要することとなった。が、資料の作成方法（撮影方法とデータ用紙書式）を決定できたのが今回の目的であり第一の成果である。今後同一方法・書式による資料作成を、全機種にわたって行う必要がある。

資料の作成を通じて、蓄音機のデザイン的な価値を考察した。最も大きな価値は、蓄音機器のデザイン史的なものであるが、機械装置の進化とそれを覆う形状の進化を知ることができるだろう。我が国には円盤レコードの完成されたものが移入されたため、それまでの発展過程を研究する資料が少ない。今回研究対象としたエジソンの円筒式蓄音機が、円盤レコード蓄音機のデザインにどのような影響を与えたかは、今のところ不明である。エジソンは速記を助ける録音再生機を考えていたので、円盤レコード用の蓄音機が製造販売されてからも、録音再生が可能なシリンダー型蓄音機の製造を続けていた。したがって、新しいデザインの円盤レコード用蓄音機とシリンダー型蓄音機が同時に製造されていた時期があった。

研究の反省

デジタルカメラの導入

現像等の省略及び資料作成のコンピューター利用を考え、デジタルカメラを導入したが、様々の設定が必要であった。撮影結果をテレビモニターで確認できるが、コンピューターに取り込んだ画像が良好であるとは限らない。一部撮り直しが必要である。コンピューターによる確認が直ちにできるように、撮影場所にコンピューターを設置することが望ましい。

トーマス・アルバ・エジソン (Thomas Alva Edison 1847~1931) 年譜

1877 (明治 10) 年 12 月 錫箔式フォノグラフを発明・**ティン・フォイル一号機の製作**

1878 年 1 月 エジソン・スピーキング・フォノグラフ社設立

一号機「Improvement in Phonograph or Speaking Machine」を特許申請

ティン・フォイルの製造 (500~600 台で製造中止)

白熱灯・発電の開発に専念

1888 年 ベル、ティンター、ベルリナーらの蓄音機改良

6 月 ワックス・シリンダー使用の改良型蓄音機「Perfected」を発表

ジェシー・リピンコットがノース・アメリカン・フォノグラフ社を設立。エジソンの蓄音機とレコードを一手に販売

1889 年 エジソン・ノースアメリカン・クラス M・E

1894 年 フランスのリオレットにより、セルロイドのシリンダーが開発される

1895 . 6 年 ゼンマイ (Spring motor) 式フォノグラフを開発

エジソン・スプリングモーター式蓄音機

1896 年 エジソン・ホーム A 型スーツケース型

1898 年 エジソン・スタンダード A 初期角型ケース

1899 年 シカゴのランバートによる、セルロイドのシリンダーが開発される

エジソン・ジェム初期型箱なし A 型

ベルリナーの円盤式レコード・蓄音機が玩具会社

ケメラ・ウント・ラインハルトから製造販売される

1900 年 ランバートによる、セルロイドのシリンダー・レコード発売

エジソン・ジェム初期型箱付き型

1901 年 再生専用音楽レコード、ゴールド・モールデッド・レコードの生産開始

エジソン・ジェム A 型

再生機「C 型」開発・サファイア針を使用

エジソン・スタンダード A 型新型

1904 年 エジソン・ホーム A 型

1905 年 エジソン・スタンダード B 型新型

- エジソン・ビジネス蓄音機
- 1906年 エジソン・スタンダードA型
- 1908年 エジソン・ジェムC型
- エジソン・スタンダードD型
- 1909年 エジソン・ジェムD型
- エジソン・ファイアサイドA型
- 1910年 エジソン・トライアンフE型
- エジソン・アンペローラ・1号
- グラモフォンが円盤の音楽レコードを多量に生産
- 1912年 ブルーアンペロール（青色セルロイドのシリンダー）レコードを発売
- エジソン・トライアンフ後期型
- エジソン・オペラ
- ダイヤモンド針を用いた、ダイヤモンド・ディスク・フォノグラフ及びダイヤモンド・ディスク・レコードを発売
- 1915年 エジソン・アンペローラ・75
- 1921年 エジソン・エディフォン卓上機
- 1923年 エジソン・エディフォン・フロア型
- 1925年 電気録音によるレコードの開発
- 1929年 蓄音機・レコード生産中止
- 1930年 エジソン・ディクタフォン

追記 なお、研究成果発表を兼ねた展覧会「大阪芸術大学コレクション - 蝋管蓄音機の世界 - 」を、1999年3月31日（水）～4月20日（火）の期間、伊丹市立工芸センターにおいて開催した。

大阪芸術大学コレクション

蝋管蓄音機の世界

平成9年度大阪芸術大学芸術研究所調査補助費による

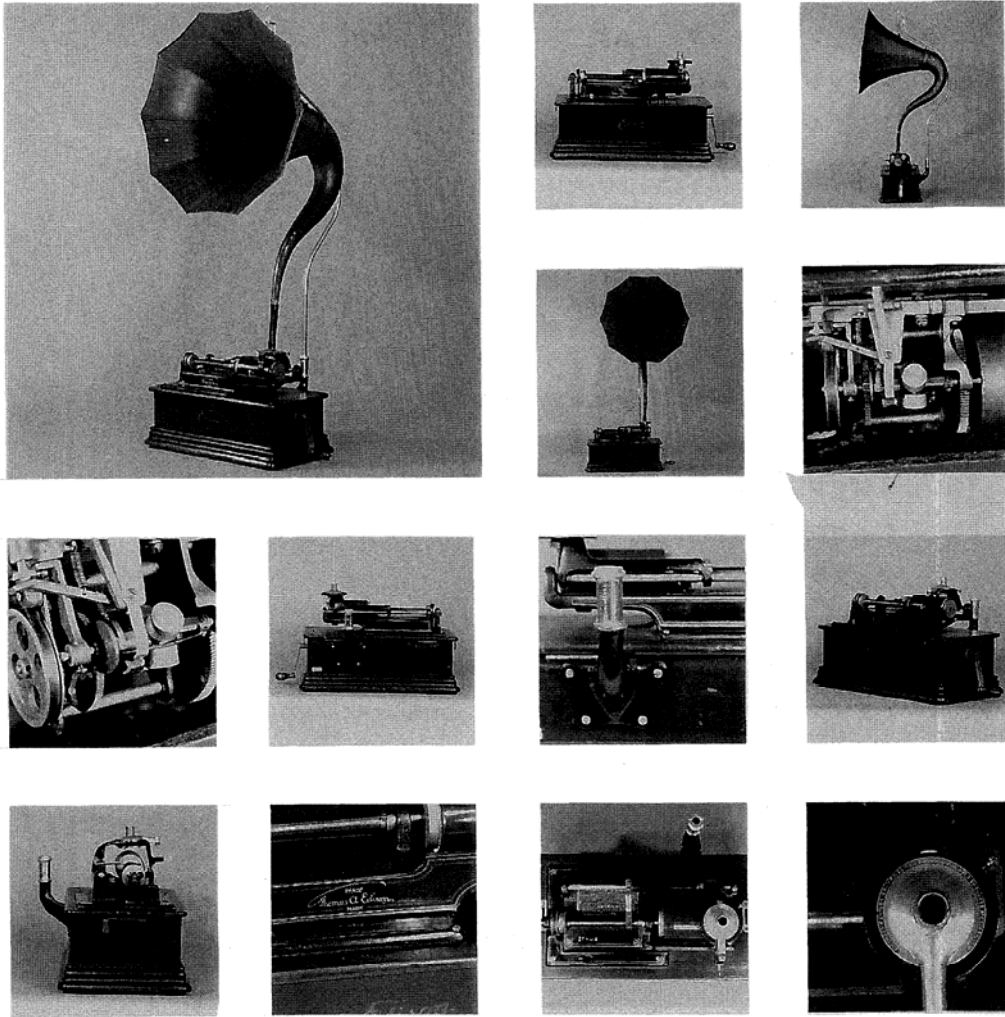
「蓄音機デザイン調査研究」

デザイン学科 出原栄一・福田 肅・大谷幹夫・江尻幹子

主催 = 伊丹市・伊丹市立工芸センター 後援・協力 = 塚本学院・大阪芸術大学

1999年3月31日（水）～4月20日（火）入場無料

10：00am～6：00pm（入館は5：30pm 最終日4：30pm迄）月曜日休館



HOME MODEL E

エジソン ホーム モデルE 1911~1912 (明治 44~45) 年 アメリカ

EDISON HOME model E 1911-1912 USA

「トライアンフ モデルE」と同様、2分と4分のシリンダーが使えるように
 「モデル 」リプロデューサーを採用し、そのため、大型のキャリアームが付けられている。
 標準のキャビネットはオーク製。価格は、45ドル。